

施策評価調書(24年度実績)

施策コード I-5-(1)

政策体系	施策名	豊かな自然との共生と快適な地域環境の創造	所管部局名	生活環境部	長期総合計画頁	45
	政策名	恵まれた環境の未来への継承～ごみゼロおおいた作戦の推進～	関係部局名	生活環境部、農林水産部、土木建築部		

【Ⅰ. 主な取り組み】

取組No.	①	②	③	④
取組項目	自然や生物多様性の保護・保全と適正利用の推進	快適な地域環境の保全と創造	温泉資源の保護と適正利用の推進	ジオパーク整備の推進

【Ⅱ. 目標指標】

指標	関連する取組No.	基準値		24年度			25年度	27年度	目標達成度(%)					
		年度	基準値	目標値a	実績b	b/a	目標値	目標値	25	50	75	100	125	
i	特に保護が必要な希少野生動植物の指定数(種)	①	—	—	17	18	105.9%	18	20					
ii	大分県自然公園指導員の委嘱数(人)	①	H16	56	64	68	106.3%	66	70					
iii	1人あたりの都市公園等面積(m ²)	②	H16	10.8	12.7(H23)	12.8(H23)	100.8%	12.8	13					
iv	中山間地域の集落活動(集落協定締結面積割合)(%)	②	H16	75	83	83.4	100.5%	84	85					
v	漁場再生面積(ha)	②	—	—	16,409	15,736	95.9%	17,655	19,000					
vi	温泉監視のためのモニタリングを行う源泉数(箇所)	③	H16	9	13	13	100.0%	14	16					

【Ⅲ. 指標による評価】

評価	理由等	平均評価
i	達成 平成24年度に希少野生動植物の新規指定はなかったが、希少野生動植物の保護活動をNPO法人等へ委託する取組を開始するなど、目標値以上の実績を確保している。	達成
ii	達成 大分県自然公園指導員の委嘱数は平成24年度に68名を委嘱し、目標値を達成した。	
iii	達成 都市におけるオープンスペースは、市町村への都市公園整備の促進や国庫補助事業の活用の働きかけにより着実に増加しており、目標値を達成した。なお、平成24年度の実績は平成25年10月頃に確定するため、目標値及び実績値は平成23年度の数値を記載している。	
iv	達成 中山間地域等直接支払交付金の交付を姫島村を除く17市町において実施し、1,157の集落協定と29の個別協定が締結された。22,523戸の農家が15,736haの農用地を対象にして、農業生産活動の維持及び鳥獣外防止柵の設置等による保全活動に取り組み、耕作放棄地の発生防止が図られた。	
v	概ね達成 漁業協同組合の事業として 海底・海岸清掃及び稚魚放流等の取組を推奨・指導したことにより、目標値を概ね達成した。	
vi	達成 温泉のモニタリング調査を行い、その結果を温泉監視調査委員会で検証したことにより、23年度の実績に1件追加し、目標値を達成した。	

【Ⅳ. 指標以外の観点からの評価】

取組 No.	指標以外の観点からの評価
①	・アライグマ防除講習会を6市町村で開催し、地域住民、行政関係者等254名が参加した。これにより、地域におけるアライグマ防除に係る意識の向上とともに、10市町村でアライグマ防除計画が確認済みとなるなど、市町村主体の防除体制の整備が図られた。
②	・県内505組織が地域ぐるみの保全活動を行っており、農地や農業用資源の適切な保全管理による農業の持続的発展、健全な農村環境の保全、集落機能の維持等に貢献した。
③	・温泉法に基づく掘削や動力装置の設置許可について、適正に処分を行った(許可件数81件)。また、温泉利用許可を得た施設において、温泉の成分・禁忌症等の掲示義務の啓発に努めた。
④	・推進協議会を主体とするジオパーク活動を支援し、認定申請に向けた取組を進めるほか、県内各地でジオパークに関するシンポジウム等を開催し、1,021名が参加するなど、大分ジオパーク構想に対する理解と機運醸成が図られた。

【Ⅴ. 施策を構成する主要事業】

取組 No.	事業名(24年度事業)	事業コスト(千円)	25年度の実施状況	主要な施策の成果掲載頁
①	おおいた生物多様性保全事業	32,087	継続	91
②	都市政策推進事業	30,309	継続	205
	離島漁業再生支援交付金事業	27,814	継続	157
④	農地・水・環境保全向上対策事業	216,646	継続	158
	おおいたジオパーク推進事業	47,384	継続	92

【Ⅵ. 施策に対する意見・提言】

<p>○ごみゼロおおいた作戦県民会議(H24. 10. 16)</p> <p>・アライグマについては、本県ではまだ捕獲が多くはないが、他県では多数の捕獲が確認されており、また、文化財等を荒らしている実態もあるので、早急な対策が必要である。</p> <p>○ごみゼロおおいた作戦県民会議自然保護・観光部会(H25. 5. 14)</p> <p>・絶滅危惧種保護活動については、よい活動であるが、応募数が少ないので、もっと情報発信を行ってほしい。また、単年度ではなく、長期的な支援も検討してほしい。</p>	<p>○温泉監視調査委員会(H25. 3. 5)</p> <p>・モニタリングを継続していくことが非常に重要なので、今後も継続していくこと。</p>
---	--

【Ⅶ. 総合評価と今後の施策展開について】

総合評価	施策展開の具体的内容
A	<p>・アライグマの防除の様子(モニタリング、ワナの仕掛け、捕獲等)を記録し、DVDにして市町村に配布する「アライグマ防除モデル事業」を実施することにより、防除計画の確認を受けている市町村においては、防除に係る具体的なノウハウを得ることによる防除体制の強化を、また、未だ防除計画の確認を受けていない市町村においては、早期の防除体制の確立を、それぞれ図ることとする。</p> <p>・貴重な種の保存を目的とした「絶滅危惧種保護活動事業」とともに、在来種を駆逐するおそれのある外来種の駆除を目的とした「特定外来生物駆除活動事業」を実施し、地域固有の野生動植物の保全とともに、NPO等を中心とした各地域での生物多様性保全活動の拡大と活性化を図る。</p> <p>・ジオガイド養成講座を引き続き実施し、ジオガイドの増員及びスキル向上を図る。</p> <p>・ジオパーク活動を継続した取組とするため、ジオパーク関連の商品・産品等を開発するなど、地元産業の発展を図る。</p>